

高等学校再編に係る施設整備計画等に関する要望書

貴職が推進する県立高等学校改革プランについて、当広域連合では高等学校再編問題は将来に亘る地域の重要課題と位置づけ、昨年10月に地域の合意形成に向けて教育関係者や産業界の代表者等で構成する「高等学校の未来検討委員会」を設置して検討を進め、短期間ではありましたが、「飯田長姫高校と飯田工業高校を統合し、併せて両校の定時制も統合する」等の代案を本年2月に貴職へ要望したところです。貴職においてはこれを受け、実施計画における再編対象校については当地域の意向を反映いただき感謝申し上げます。

こうした当地域の取り組みは、住民も高等学校再編は地域の最重要課題と受け止め、特に、再編対象校となった飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校の学校関係者や同窓会においては統合には断腸の思いがありましたが、統廃合に単に反対するのではなく改革は必要との認識の中で将来を見据えての議論を重ねて決断してきたものです。このことは、他の地域にはない県下唯一のモデルケースであると自負しているところであり、当地域における高等学校再編の成否が県下の高等学校再編を大きく左右するものであると考えられるため、全県下に先駆けた積極的な施設・設備の整備を進めることが必要なところです。

つきましては、当広域連合として地域の代案をまとめて要望してきた経過とともに、高等学校再編に係る地域に対する責任も有しているところであり、高等学校の再編に当たっては実態をよく見極めて十分な準備態勢を整えて推進していただけるよう、下記のとおり強く要望します。

記

- 1 高等学校改革プラン実施計画における校地・校舎は飯田工業高等学校とし、統合過程において両校間の生徒移動手段に配慮するとともに、飯田工業高等学校に必要な施設・設備を整備するとして推進されているところですが、現行の施設規模では全日制1学年6クラス・定時制2クラスの容量はなく、開校に向けては校舎をはじめ施設・設備の整備には相当の期間と経費を要するものと推測されます。しかし、これらの整備計画は未だ示されておらず、いつの時点まで現在の高等学校を活用する2校体制なのかも不明確な状況にあります。人材育成の場でもある高等学校には地域としても深い関心を持つとともに注目しており、施設・設備の整備計画を早期に公表されたい。
- 2 魅力ある高校づくりについての議論は高等学校改革の原点ですが、全県に亘り殆ど出来得ない状況にあるところから、県立高等学校の経営責任者として、地域の教育関係者や保護者等を交えた議論を進めることができる仕組みの構築と実行を進められたい。また、再編対象校である両校には、開校以来使用されている実験・実習機械類も多く、真に魅力ある高等学校とするためには、知識のみならず実社会に通用する設備による実習教育が必要であるところから、再編に合わせて設備の更新をされたい。
- 3 高等学校改革プラン実施計画が策定される過程において、当地域では時間的余裕が無い中でも各界代表者による独自の検討委員会を設置して議論を重ね、代案を要望してきた経過を御理解いただくとともに、統合高等学校の生徒募集開始は、施設・設備が整備されてからとし、平成19年4月からの募集開始は延期をされたい。

平成18年9月5日

長野県教育委員会

委員長 松田泰俊 様

南信州広域連合

広域連合長 牧野光朗

南信州広域連合議会

議長 熊谷富夫

高等学校再編に係る生徒募集開始時期の延期等に関する要望書

長野県教育委員会が推進する県立高等学校改革プランについて、当広域連合では高等学校再編問題は将来に亘る地域の重要課題と位置づけ、昨年10月に地域の合意形成に向けて教育関係者や産業界の代表者等で構成する「高等学校の未来検討委員会」を設置して検討を進め、短期間ではありましたが、「飯田長姫高校と飯田工業高校を統合し、併せて両校の定時制も統合する」等の代案を本年2月に長野県教育委員会へ要望してきたところです。

こうした当地域の取り組みは、住民も高等学校再編は地域の最重要課題と受け止め、特に、再編対象校となった飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校の学校関係者や同窓会においては統合には断腸の思いがありましたが、統廃合に単に反対するのではなく改革は必要との認識の中で将来を見据えての議論を重ねて決断してきたものです。

当地域の再編対象校である飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校間の距離は約7kmの隔たりがあり、仮に移動するとしても片道20分を要します。また、統合校の校地・校舎となる飯田工業高等学校の現行施設規模では全日制1学年6クラス・定時制1学年2クラスの容量はなく、開校に向けては校舎をはじめ施設・設備の整備が必要となりますが、これには相当の期間と経費を要するものと推測されます。

このまま現在の両高等学校の活用による生徒募集が開始されれば統合校が分割され、学習や部活動などの生徒を取り巻く環境が劣悪なものとなり、生徒は勿論のこと保護者にも限りない苦しみを与えることとなることは明白です。

こうしたことから、当広域連合と広域連合議会では再編を進めていくに当たっては、統合校の施設・設備が整備されてからの生徒募集開始が最適と判断して、去る9月5日に長野県教育委員会に対して来年4月からの生徒募集開始の延期などを求める要望をした

ところですが、長野県教育委員会は今回の臨時議会に今までの方針と変わらない平成19年度から実施の議案を提出する予定となっています。

つきましては、真に意義ある高等学校改革としていくためにも当地域の実情を御理解くださり、下記事項について御高配をいただきますよう要望いたします。

記

- 1 統合校の施設・設備の整備計画は未だ示されておらず、いつの時点まで現在の飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校を活用する2校体制なのかも不明確な状況にあります。人材育成の場でもある高等学校には地域としても深い関心を持つとともに注目しており、整備計画の早期公表と整備の促進を図られたい。
- 2 飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校の統合に当たっては、統合校の施設・設備の整備がされてからの生徒募集開始とし、平成19年4月からの募集開始は延期をされたい。

平成18年9月8日

長野県知事 村 井 仁 様

南信州広域連合

広域連合長 牧 野 光 朗

南信州広域連合議会

議 長 熊 谷 富 夫

高等学校再編に係る生徒募集開始時期の延期等に関する要望書

長野県教育委員会が推進する県立高等学校改革プランについて、当広域連合では高等学校再編問題は将来に亘る地域の重要課題と位置づけ、昨年10月に地域の合意形成に向けて教育関係者や産業界の代表者等で構成する「高等学校の未来検討委員会」を設置して検討を進め、短期間ではありましたが、「飯田長姫高校と飯田工業高校を統合し、併せて両校の定時制も統合する」等の代案を本年2月に長野県教育委員会へ要望してきたところです。

こうした当地域の取り組みは、住民も高等学校再編は地域の最重要課題と受け止め、特に、再編対象校となった飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校の学校関係者や同窓会においては統合には断腸の思いがありましたが、統廃合に単に反対するのではなく改革は必要との認識の中で将来を見据えての議論を重ねて決断してきたものです。

当地域の再編対象校である飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校間の距離は約7kmの隔たりがあり、仮に移動するとしても片道20分を要します。また、統合校の校地・校舎となる飯田工業高等学校の現行施設規模では全日制1学年6クラス・定時制1学年2クラスの容量はなく、開校に向けては校舎をはじめ施設・設備の整備が必要となりますが、これには相当の期間と経費を要するものと推測されます。

このまま現在の両高等学校の活用による生徒募集が開始されれば統合校が分割され、学習や部活動などの生徒を取り巻く環境が劣悪なものとなり、生徒は勿論のこと保護者にも限りない苦しみを与えることとなることは明白です。

こうしたことから、当広域連合と広域連合議会では再編を進めていくに当たっては、統合校の施設・設備が整備されてからの生徒募集開始が最適と判断して、去る9月5日に長野県教育委員会に対して来年4月からの生徒募集開始の延期などを求める要望をした

ところですが、長野県教育委員会は今回の臨時議会に今までの方針と変わらない平成19年度から実施の議案を提出する予定となっています。

つきましては、真に意義ある高等学校改革としていくためにも当地域の実情を御理解くださり、下記事項について賢明な判断をいただきますようお願いいたします。

記

- 1 統合校の施設・設備の整備計画は未だ示されておらず、いつの時点まで現在の飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校を活用する2校体制なのかも不明確な状況にあります。人材育成の場でもある高等学校には地域としても深い関心を持つとともに注目しており、整備計画の早期公表と整備の促進を図られたい。
- 2 飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校の統合に当たっては、統合校の施設・設備の整備がされてからの生徒募集開始とし、平成19年4月からの募集開始は延期をされたい。

平成18年9月8日

長野県議会

議長 萩原 清 様

南信州広域連合

広域連合長 牧野光朗

南信州広域連合議会

議長 熊谷富夫